

独立行政法人 経済産業研究所 (RIETI)

BBLセミナー プレゼンテーション資料

2020年2月6日

「インパクト投資の動向と今後の拡大に向けた課題」

株式会社ヒューマンアルバ
共同代表 代表取締役
上野 聡太

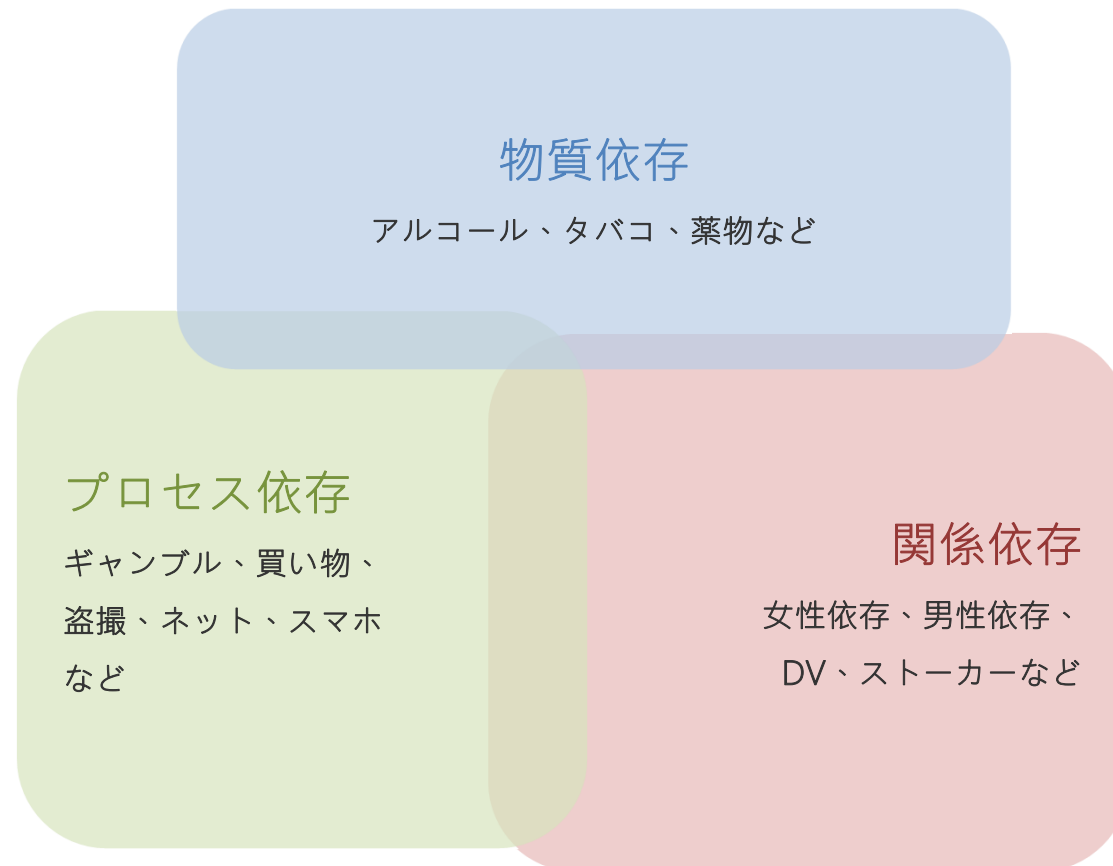


株式会社ヒューマンアルバ

特定の何かが「やめたくても、やめられない」状態

依存症は、病気

■ 依存症の分類と種類



3大依存症で200万人以上

3大依存症の規模予測

223万人

アルコール
109万人

= 伊藤さん

ギャンブル
70万人

= 山田さん

薬物
44万人

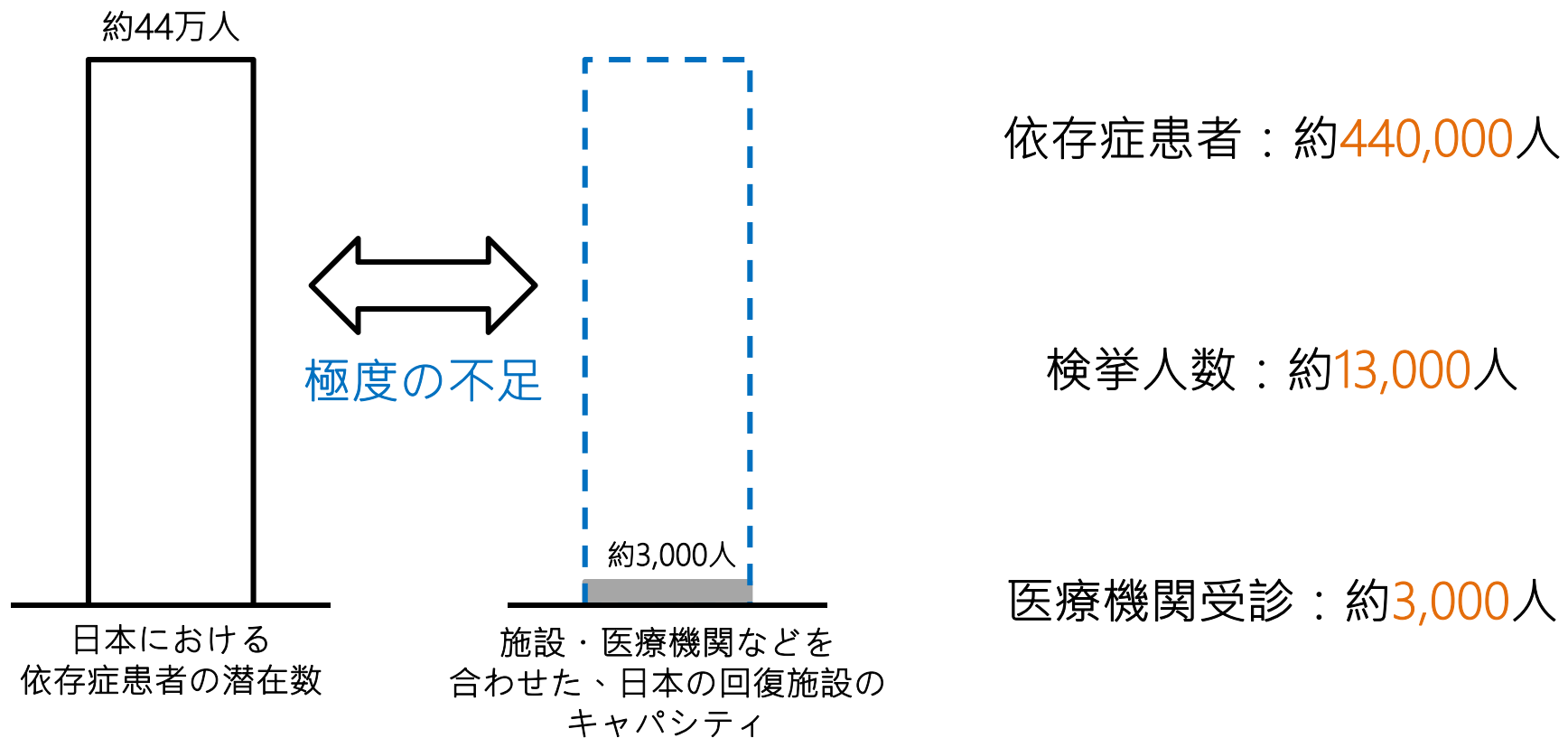
= 森さん

ソース・出典

- ・アルコール依存症者数（厚労省調査）<http://www.zaikai.co.jp/article/20160130/290927.html>
- ・ギャンブル依存症数（厚労省調査）<http://www.asahi.com/articles/ASKB55SV3KB SUBQU010.html>
- ・薬物依存症数（当社推定）

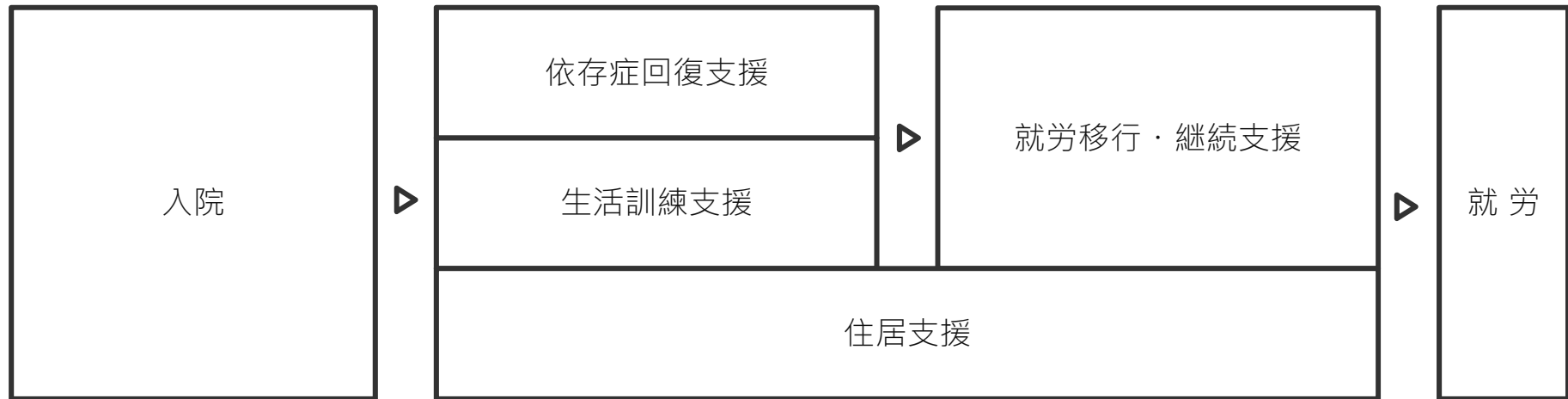
- 依存症患者に対し、著しく少ないサービス供給の現状
- 特に薬物依存では、全体の1%にも満たない供給量

薬物依存患者と回復施設の供給量



病院での治療後、回復支援→就労移行支援を経て、社会に復帰

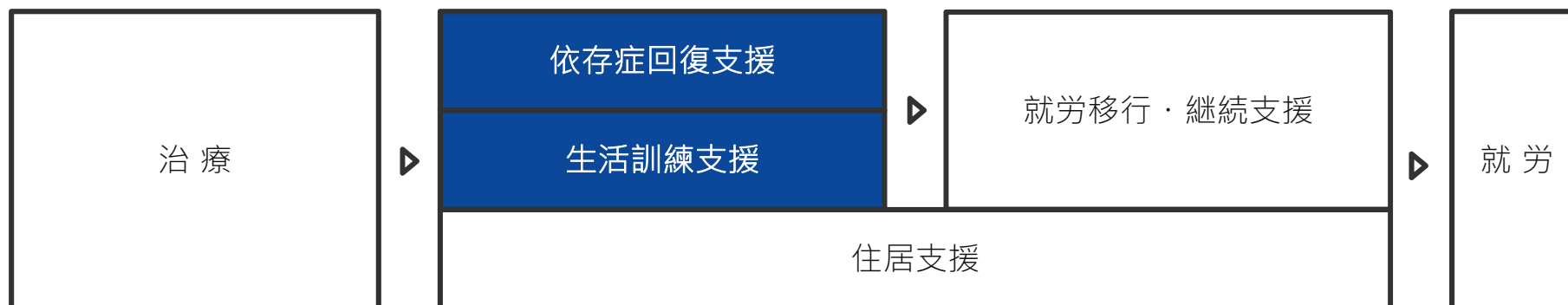
■ 依存症回復ための一般的なプロセス



社会復帰の姿も様々だが、
原則は「就労」を目指す

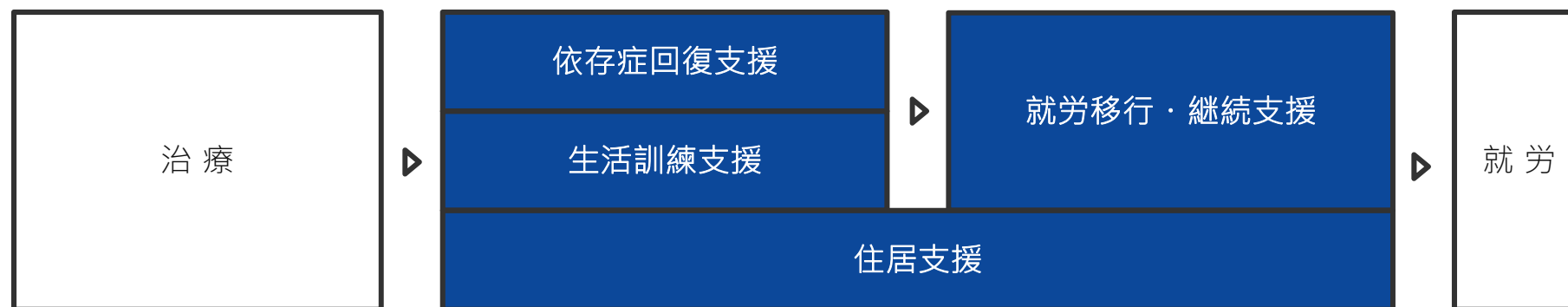
「地域連携モデル」と「アルバ展開モデル」で生態系構築を目指す

(1) 地域連携モデル



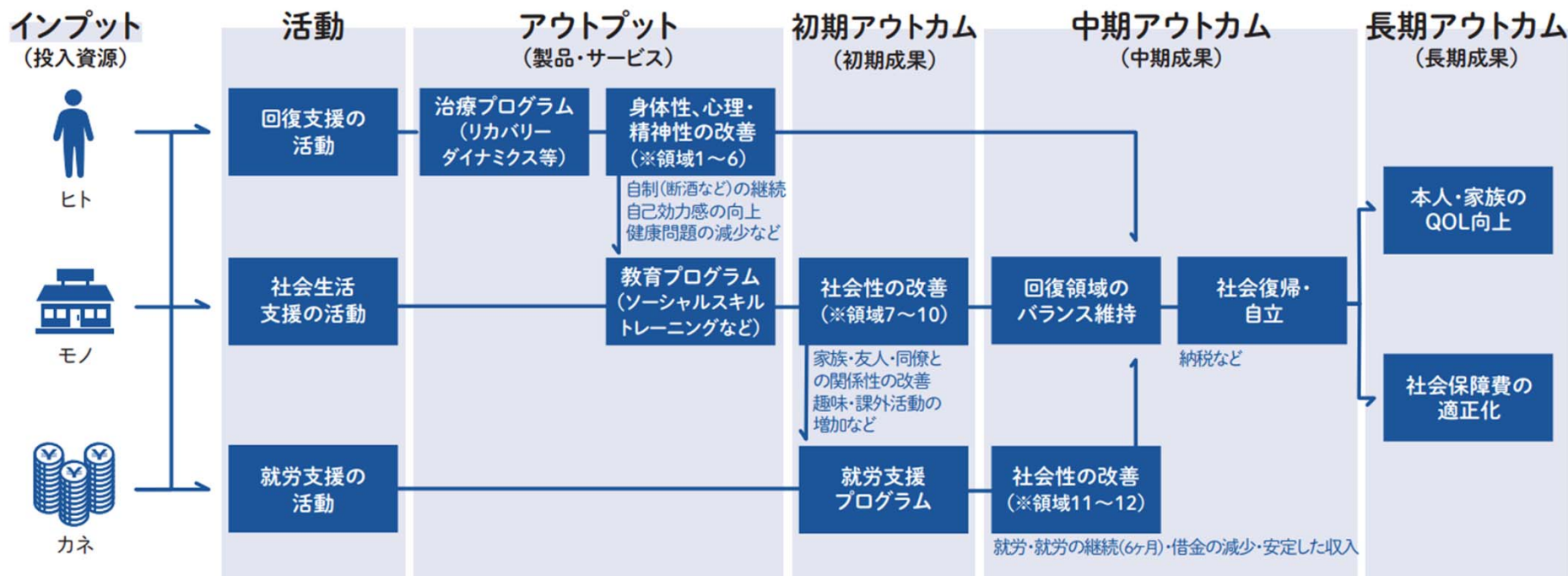
- すでにその地域にある回復資源と連携し、足りていないピースをアルバが埋めるモデル

(2) アルバ展開モデル



- 治療と就労の間のプロセスをヒューマンアルバが一気通貫に対応するモデル

ヒューマンアルバが提供する各種トレーニングを通じて社会性を改善することによって社会復帰・自立を目指し、依存症患者本人と家族のQOL(生活の質)を改善し、ひいては依存症患者に係る社会保障費の適正化を目指す。



「回復の定義」

回復の定義は学者・依存症の種類によって様々なため、世界的に「回復」の定義は定まっていません。回復の効果測定についても様々な研究がなされている一方、国内における効果測定に基づいた回復プログラムの提供はまだ少ないというのが現状です。

「アルバ」では海外文献等、リサーチを通じて「身体性」「心理・精神性」そして「社会性」を3つの柱にすえ、その下に12の項目を置きました。



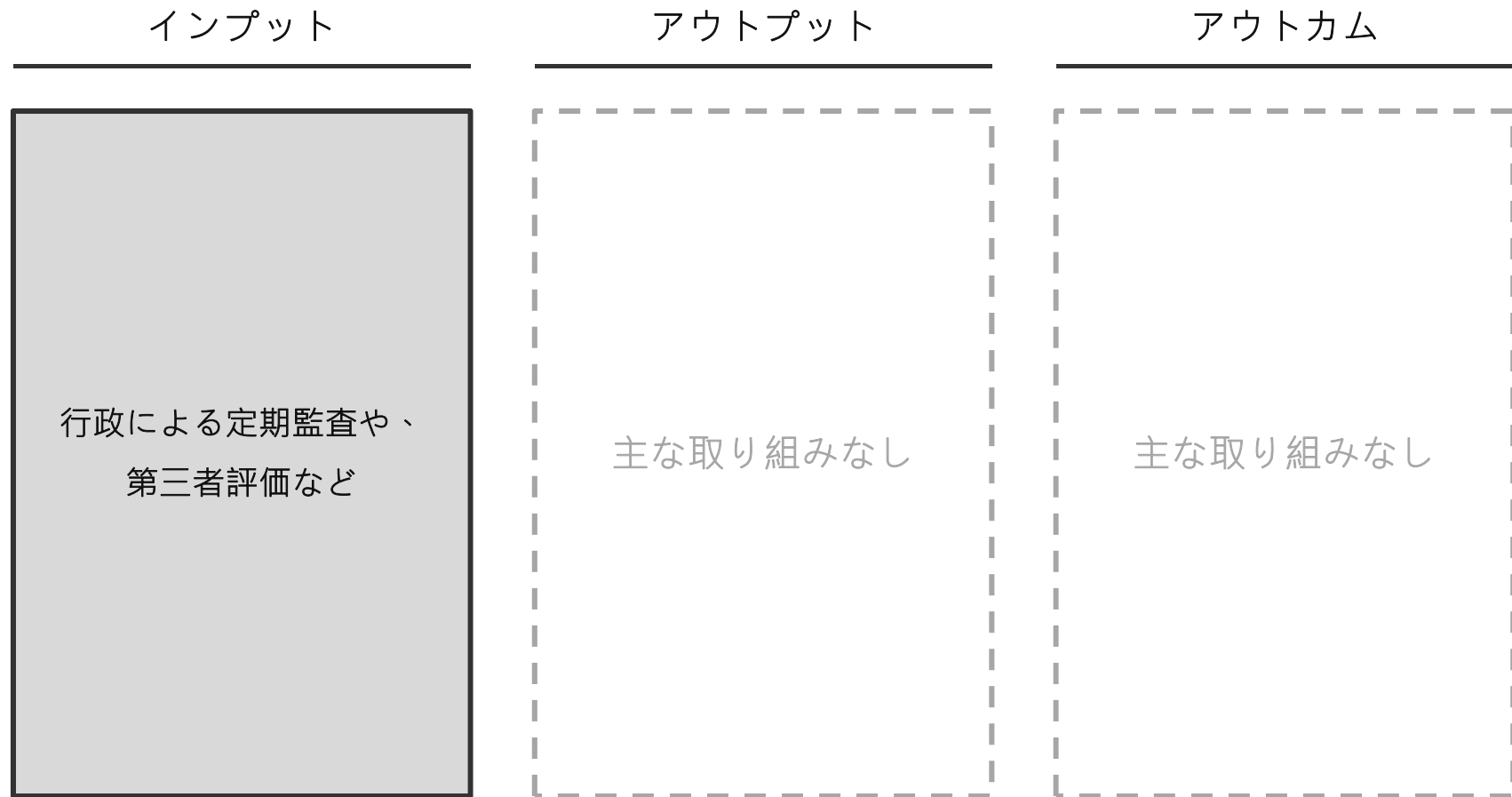
論点1：どこにフォーカスを合わせるのか？

- 「個人の幸せ」にはフォーカスしない
- あくまで、仕組みやシステムとして事業を見るという前提

論点2：その先にアプローチを見いだせる部分を測っているか？

- その先のない数値化、にならないように注意する
- インパクト評価は、事業、仕組み、システムをチューニングするための手段
という側面を忘れないようにする
- そのためには、どんな数字があったらどんな改善、経営的な意思決定ができるかをイメージした仮説が重要

インプットまでの評価にとどまっている
そのため、結果からの事業評価・改善ができていない

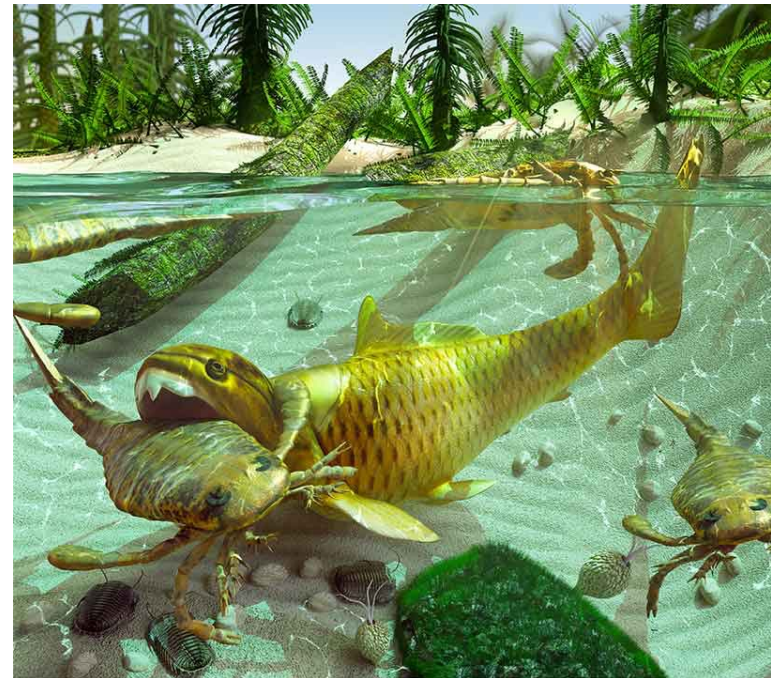


サービス提供側の新陳代謝、変化が起きにくく
現実のニーズとギャップが大きい

サービス提供側

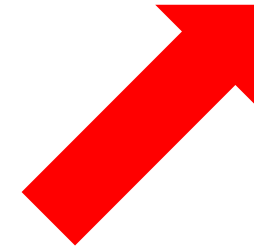


社会のニーズ



社会に限りある資源の最適化

公的なサービスを必要とする人



公的なサービスを提供する原資



End of document